

上水道DX推進事業（長野県白馬村上下水道課）

水道メーター無線検針システムの導入

・当村は豪雪地域の為、冬季間のメーター検針が出来ないことから暫定による賦課をしている。それにより発生する業務や、漏水の発見の遅れなどが大きな課題であるため、無線検針システム（電子メーターに無線子機を取り付け、無線子機の発する無線により雪に埋まっているメーター検針を可能とする）を導入するもの。

事業概要

- ・事業期間：令和7年～令和14年（予定）
- ・実施箇所：白馬村一円
（給水人口7,532人、給水世帯数4,343 R6.4.1現在）
- ・事業概要：水道料金算定の為、水道メーターに無線システムを取り付けることで、水道メーターから離れた場所（メーター付近に停車した車中）での検針を可能にする。主に冬季間の検針用に導入。



先端技術の導入等となった背景・課題

白馬村は豪雪地帯の為、冬期間は積雪により目視によるメーター検針ができない。その為、12月～4月分の水道料金は暫定料金を賦課し、5月の目視検針再開により料金の精算を行う。結果、暫定料金の賦課や精算に関する事務が煩雑になり、かつ暫定期間中漏水に気づくことが出来ず、漏水水量の増加による使用者の負担の増加や、漏水減免の問い合わせによる事務処理が増加する。検針員も高齢化してきているなか、目視によるメーター検針は負担が大きくなってきている。

問合わせ先

白馬村役場上下水道課

TEL0261-85-0714(直通)／Email:suido@vill.hakuba.lg.jp

導入により目指す業務効率化

- 事務の軽減
冬季暫定料金算定に係る事務を無くすことが出来る。
（暫定料金通知および精算通知の作成、発送）
- 誤針の削減
目視による手入力の検針と比べ、機器に指針が転送される為誤針を削減出来る。
- 電子メーターへの変更で様々な情報を取得可能に
電子メーターの機能を活かした水量データの保存等により、給水の情報を得られる。
- 冬季以外も検針の効率が向上
土砂等でメーターが埋まっている場合も検針が可能に。

類似事業との差別化・差異

- ドライブバイ方式の検針が可能に
メーターを見るために車から降りることなく、手持ちの機器で無線データを取得する為、車中にいながら正確な検針が可能に。よって、検針員の高齢化が進むなか、車の乗り降りの負担が軽減できる。
- メンテナンスが容易に
「無線子機」をメーターボックスに入れておくだけで検針が可能に。電話や携帯の回線を使用する検針方法に比べ接続が容易に行え、通信費用が掛からない。携帯電波の弱い山間部でも検針可能。
- 雇用機会の維持
検針作業が必要な為、雇用機会を維持できる。

